

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市健康増進センター
2	指定管理者	公益財団法人仙台市健康福祉事業団
3	指定期間	平成29年4月1日から平成34年3月31日
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》 28,943人（前年度比 106.0%） ※平成27年度は健康祭を大規模に実施したため利用者増 平成29年度 28,943人 : 内地域展開事業利用者 2,807人 平成28年度 27,309人 : " 2,811人 平成27年度 31,705人 : " 3,732人</p> <p>《事業》 生活習慣病予防や高齢者の介護予防、障害者の健康づくりの3つの事業を中心に、健康リスクを抱えた市民への専門的な健康づくり支援を展開 ・生活習慣病の予防 ・高齢者の介護予防 ・障害者の健康づくり ・健康度測定の実施と健康づくり支援プランの作成 ・指導者養成 ・各種出前講座</p>
5	収支の状況	<p>《費用》</p> <p>・ 指定管理者に支払った費用 202,540千円 (200,814 千円) ()は前年度決算額 ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)</p> <p>《収入》</p> <p>・ 使用料収入 7,127千円 (7,143 千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)</p>
6	利用者の声	<p>《実施状況》 ・ 施設内2カ所にアンケートを設置している。寄せられた利用者アンケートは月ごとにとりまとめ、対応を協議するとともに、所管課へ報告している。また、各講座ごとに出席者アンケートを実施し、講座の内容や企画、実施方法の参考にしてている。</p>

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	生活習慣病予防、高齢者の介護予防、障害者の健康づくりを3本柱に、健康リスクを抱えた市民への専門的な健康づくり支援を積極的に行っている。健康リスクを抱える市民の他、その支援関係者も対象とした研修実施など、人材育成にも積極的に取り組んでいる。また、障害者の健康づくりの推進にあたっては、障害者分野で取り組んでいるネットワーク形成事業にも参画し、研修企画や障害者の健康情報の提供などを積極的に行っており、障害者の健康づくりの推進に寄与している点においても評価できる。	S
II 施設の運営管理体制	様々な健康リスクのある方が安全に安心して施設利用できるよう、安全確認や誘導、見守りなどの体制を組んで、受け入れを行っているほか、「危機管理マニュアル」「事故事例集」といった危機管理に関するマニュアルを整備し組織内での共有するなどの対応も行っている。また、「個人情報の取扱遵守事項」の全職員配布・事務室内での掲示による情報セキュリティ対策や個人情報保護の管理徹底など、施設の運営管理や利用者の安全・安心のための必要な対策がとられており評価できる。	S
III 施設・設備の維持管理	平成4年度の開設当時から使用している設備も多く、雨漏りの問題も顕在化している。特に、分電盤周辺に雨漏りが発生してきていることから、雨の都度点検を行い、必要な措置を行っている。その他、清潔の保持を徹底するなど、市民が快適で安全に、安心して利用できる施設として維持管理されている。更に、安全に運動できる室温等の環境管理に十分に留意しつつ、仙台市環境行動計画に則って節電を行っている事やごみの分別、リサイクルなどに積極的に取り組んでおり、評価できる。	S
IV サービスの質の向上	センターだよりの毎月発行や、市政だよりのホームページ、地元紙の活用等により、健康づくりや各種事業に関する情報を発信するほか、関係団体と共催での事業を実施するなど、健康づくりに関する啓発に積極的に取り組んでいる。また、センター利用者に対する受付関連マニュアルの整備、教室実施前後のスタッフミーティングの実施等、利用者へのサービス水準を確保するための取り組みを行っている。	S
V 施設固有の基準	健康リスクに対応した健康づくりの推進のために、各区で開催している障害者自立支援実務者ネットワーク会議に定期的に参加しており、幹事会のメンバーとしても役割も定着してきている。また、障害者総合支援センター、北部発達相談支援センターとの間で、より良い施設運営を図るために定例ミーティングを行っているほか、共催事業として「いずちあゆみ健幸祭」も継続開催している。その他、地域関係機関と連携した健康講座の開催も増えており、活動の幅の広がりが見られている。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

四 評価総括

《指定管理者（（公財）仙台市健康福祉事業団）による自己評価》	
1 指定管理業務全般について	<p>平成4年の開館から25年が経過し、機械設備・電気設備等も更新時期を迎えており、修繕件数も増加している。平成29年度はGHPエアコンの修理、排水管からの漏水のための修理、非常照明設備用蓄電池の触媒栓交換等を実施した。また、開館時から使用しているエレベーターも安全面からインバータとエンコーダの交換を実施した。建物の面では雨漏りの箇所が増加しており対応が急務となっているが、平成29年度は仙台市による施設長寿命化現地調査が実施され、今後その結果を受けて計画的に修繕を実施していく予定となっている。指定管理者としても日常の巡回の実施や設備点検の励行を通じて、引き続き施設の安全性の向上に努めたい。</p> <p>利用者サービスの点では、更衣室のロッカーを更新し利便性の向上に努めるとともに、窓口対応手順や対応マニュアルの見直しを行い、より利用しやすい施設となるよう努めた。また、運動支援ボランティアを活用することで、増加する高齢者や障害者の利用時の安全性の確保に繋がった。</p> <p>環境への取組みについては、前年度に引き続き新・仙台市環境行動計画の趣旨に沿って環境負荷の低減に努め、空調設備の間欠運転、不要な照明のこまめな消灯、職員への省エネの啓発を行うとともに、ごみの減量のためのリサイクルの促進、分別処理を実施した。また、入居団体とも連携し環境負荷の低減に努めている。</p>
2 健康増進事業について	<p>協定書に基づき、医師や保健師、運動指導員等の資格を持つ職員を配置し、専門職の技術・技能を生かした事業展開を引き続き実施した。ヘルスアップセミナー、メタボリックシンドローム予防教室といった生活習慣病予防では、職場や団体での利用を想定した平日開催だったため、個人でも参加しやすい週末に短時間で受講可能な講座を増設した。施設機能を活かし、座学だけではなく運動や調理といった実践内容を工夫している。また、健幸ウォーキングマップを新たに2コース作成し、全9コースとなった。ウォーキングマップは区役所等の各公所で配布するとともに、ホームページからのダウンロードも可能となっており、地域での健康づくりの一助となっている。</p> <p>障害者の健康づくりネットワーク構築のため、各区の障害者自立支援協議会の実務者会議に参加した。泉区の「健幸プロジェクト」では、プロジェクトリーダーとして「障害のある方の健康に関する実態調査」に参画し、事業所を対象としたアンケート調査により障害者の健康課題について共有し今後の活動に繋げることができた。</p> <p>平成29年度より認知症対策として、認知症・MCIの正しい理解を啓発するとともに「脳の健康づくり」を普及啓発している。また、健康的で活動的なライフスタイルを実践するスキル習得のための高齢者運動教室を実施している。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>指定管理者がこれまで蓄積してきた専門的な知識や経験、人材により、生活習慣病予防、高齢者の介護予防、障害者の健康づくりに関する各種事業が着実に実施されている。特に障害のある方の健康づくり支援に関しては、障害特性による健康リスクに対応した支援プログラムを作成し提供することで、障害者の継続的な運動実践につながっている。また、支援関係者に対する研修や情報提供などにより、通所施設などでの活動につなげている点などが評価できる。平成29年度の利用者数は、前年度より増加しており事業運営を見直した効果がみられる。平成29年度利用者数 28,943人のうち障害者は、7,977人と全体の27.6%を占め、障害者の貴重な運動の場となっている。</p> <p>施設管理については、北部発達相談支援センター、障害者総合相談支援センター、乳がん検診泉センターなど併設施設の維持管理も確実にしているほか、立地上トラブルの多い駐車場利用についても、併設施設間で情報共有したり、対応策を検討、実施している。また、老朽化が進む施設の点検を施設管理者だけでなく、専門業者にも積極的に依頼するなど、施設管理も適切に行っている。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局保健衛生部健康政策課